

橋下知事直轄の改革プロジェクトチームが4月11日、「財再建プログラム試案」を公表しました。「財プロ」試案は08年度で1,100億円の歳出を削減するとして、府民のくらしと子どものたちの教育を直撃し、府有施設の統廃合を一気にすすめて府民が育んできた文化を容赦なく切り捨てようとするものです。こうした“大阪こわし”ともいえる暴挙に対し、怒りがわき起こり、府民の自主的な運動が広がり、互いに連携をとりながら発展しています。

大阪府立国際児童文学館 廃止の再考を府に求める

元大阪府教育長 梶居 孝さん

児童文学者の鳥越信さん、30年間にわたって集めた12万点の資料を全部寄付します。どうか児童文学館をつくらせてください。大阪府立国際児童文学館の件で、私は1979年、国際児童館の年でした。その時、二つの条件がつけられました。条件の一つ目は引き続き子どもの本・雑誌などを集めること、もう一つはそれを



国際児童文学館(吹田市)

の志を無に、日本中の研究者をつかりさせ、出版社、文庫関係者などの熱意も注ぎたい。出版した本を、研究者は体験し、かつ知るところにする。最近、サイトなどで子どもたちが加害者になり始めた事態の裏に、「家庭での安らぎ」が失われてきているという事情があり、評論家の岸次俊介さんはいいます。家庭では子どもが優先されるのが本来の姿なのに、自分の欲求を優先する親が増え、親子の愛が壊れてしまっていると感じる。子どもが増えることで、子どもが増えているというのです。

府立国際児童文学館は、この教育の基礎となる家庭の部分に働きかけるという、大きな使命をもっています。府当局の再考を求めます。

橋下「行革」待った！

怒りわきあがる



「大阪の高校生に笑顔をくださいの会」

大阪の高校生に 笑顔をください

教育切り捨てに対し「会」を結成

「当事者である私たちが声をあげています。」 府が「財プロ試案」で教育の切り捨てを打ち出していることに対し、府内の公立・私立の高校生が「大阪の高校生に笑顔をくださいの会」を立ち上げました。府の「試案」では、私立学校の授業料補助減や経費助成の大幅削減、定時制・通信制高校の教科書無料化の廃止が盛り込まれ、子どもたちの学権を直撃しています。

阪府教育会館でつなわれ、公立・私立の高校生34人が参加。私立の高校と大学を卒業し、堺市内の障害者施設で勤労支援をしている大倉結衣さんが自分の体験を報告。家計がきついなにか、福祉の仕事に就きたいと奨学金を親類から借金して学校に行くと、現在は非正規雇いで手取り収入は15万円程度、生活しながら毎月奨学金などを返済していることを語り、「若者も苦しんでいる」と、大阪が明るくなるのでしょうか。大阪を愛する、私たちが大阪府民」と発言しました。

大阪が誇れる 笑いの文化を守ろう

大阪府立上方演芸資料館 館長 伊東 雄三さん



ワッハ上方(大阪市中央区)

私たちは橋下知事就任後約2ヶ月間、ワッハ上方の移転・規模縮小反対を訴え、とりこみやすめてきました。3月17日には作家の難波利一先生、演芸人見喜味いし生が記者会見し、知事へ申し書を提出しました。4月17日には作家の藤本義久先生も提出者の一人となり、2万筆以上の署名を府に提出しました。1989年の漫才師・砂川捨丸さんの遺族が60年間舞台で使用した鼓を、夢路いとし・喜味いしさんが秋田県重瀨才太を府へ寄贈。94年には府が基本計画を策定し、そのなかでワッハ上方は、吉本興業や地元商店街などの協力関係のもと文化行政を推進してまいりました。なんば、千日前から他の土地へ移転するべきと考えられませんが、また公共性や公益性を保持するためには、民営化もなじみません。公立施設だから資料が寄せられ、NHKを含む在阪放送局から映像・音源資料が無料提供されるのです。

このように文化はほんのり、日本のおこにも大阪の財産。日本のどこにもない大阪の誇りです。ワッハ上方は、吉本興業や地元商店街などの協力関係のもと文化行政を推進してまいりました。なんば、千日前から他の土地へ移転するべきと考えられませんが、また公共性や公益性を保持するためには、民営化もなじみません。公立施設だから資料が寄せられ、NHKを含む在阪放送局から映像・音源資料が無料提供されるのです。

35人学級の存続・拡充へ すべての教育関係者の共同を

調査でも子どもの学習や生活規律などへの効果も認められて、少人数学級が教育関係者の共同を呼んでいます。府教委の調査でも子どもの学習や生活規律などへの効果も認められて、少人数学級が教育関係者の共同を呼んでいます。

5月の主張

「試案」は、この流れに逆行し、教育行政のこれまでの努力を帳消しにするものです。 大阪府は、この流れに逆行し、教育行政のこれまでの努力を帳消しにするものです。

府政のあり方 変える共同へ

大教組は、大阪の教育の後退を許さず、子どもと教育を守るために、35人学級存続・拡充の大きな運動をすすめることを呼びかけます。35人学級の存続は、父母・教職員の願いを代弁し、すべての教育関係者の共通した願いです。

10年に及ぶ生徒対象の労働調査

松崎康裕さん

1995年から、就職の準備をして、雇用と労働に関心がありました。アルバイトの経験と調査に思い、調査で「1.何をしたら、2.いくらもらったか、3.アルバイトを書かせました。70/80の生徒がアルバイトを経験していましたが、その一覧表を生徒に見せると、驚いて生徒が続きと起き上がってきたことを覚えています。10年近くこの調査を続けています。お父さん、お母さん、お友達に悩むと、何かがあつて行動できることではないかと、行動できなかったら、お金を稼ぐための力を育てる。行動する力を育てる。アクションレポート」

「僕が今授業を通じて考えてるのは、授業を学んだことをどうアクションに形を付けていくかです。労働法については、何か見えないものがあつた。このあたりは、平和学習でも活用できると思っています。」

私の教育実践 働くルールを学び、行動する力育てる

生徒のアクションレポートを紹介。①僕のバイト先の更衣室は元は小さい倉庫をあけて作ったもので、そのために、暑さ対策は二入までが限界です。夏はクーラー、外の気温も暑くなり、冬はこもります。②僕のバイト先の更衣室は元は小さい倉庫をあけて作ったもので、そのために、暑さ対策は二入までが限界です。夏はクーラー、外の気温も暑くなり、冬はこもります。

弥生文化博物館は府民が つくった大阪のたから

文化財保存全国協議会代表 石部 正志さん



1960年代から70年代、第2阪和国道(現国道26号線)建設によって弥生時代の大遺跡がある池上曽根遺跡(和泉市・東大津市)・四ツ池遺跡(堺市)がともに壊滅の危機を迎えました。このとき考古学研究者、地元教職員や自治体職員はじめ多くの府民が、この大遺跡の保存を訴え決起し、10年以上にわたって遺跡を守り、と熱心な活動がくりまわりました。

発掘調査によって遺跡の重要性が誰の目にも明らかになるにつれて、膨大な遺物が出ました。これらの遺跡を史跡に指定して保存するも、断片だけなく、出土品も遺跡と一体のものとして隣接地に保管し、誰もが見学できる博物館を建設しようという運動も起されました。この熱意が大府府と地元市を動かすきっかけになりました。

京都市教組 超勤訴訟判決



京都市教組組合の人が「超勤勤務を是正し、もっと子どもと向き合う時間を」と京都府を相手に訴えた超勤裁判。4月23日京都地裁は、教育行政の違法性を認定し、原告と市に校長の安全配慮義務違反として55万円の慰謝料を支払うことを命じた判決を下しました。

これで「子どもが笑う」のか？

5・16橋下「教育改革」を考えるシンポジウム

5月16日(金) 午後6時30分～
会場：たかつガーデン8F

○ミニ講演 鳥越信さん(児童文学者)
○シンポジウム
コーディネーター 中山徹さん(奈良女子大学)